

11月23日の朝日放送「キャスト」の「なんでやねん！」、祝日と言うこともあり、多くの方々にご覧いただけたようで、オンエア一中、LINE やメールで、多数の知人から「見てますよ！」とご連絡をいただきました。

「六甲山のハイキングコース、道が無くなるのなんで！？」という疑問に答えましたが、この道の名は「徳川道(とくがわみち)」と言います。江戸幕末の神戸開港にあたり、神戸に建設された外国人居留地が、大行列の通る西国街道に面していたため、生麦事件のような衝突事件を怖れた江戸幕府が、開港に合わせて六甲山中を縦走する大迂回路を突貫工事で作ったのがこの道です。

番組では、古川アナと歴史に埋もれたこの道のなぞに迫りましたが、時間の関係で、本来のオチが完全にカットされてしまいました。

参考までに、そのオチを書いておきます。

徳川道は、神戸で生麦事件のような外国人との衝突が起こらないようにするために作られた道なのですが、皮肉にも、江戸幕府滅亡直後に、三宮神社の前で、恐れていた衝突事件が起きました。これが、「神戸事件」で、番組の最後に古川アナが写真で少し説明していました。

シナリオでは、この神戸事件をオチに使う予定で、ロケも最後に三宮神社へ行き、大勢のギャラリーのいる中、撮影を行いましたが、編集で全てカットされました。

ということで、本来のオチです。

大丸の前にある三宮神社境内南西隅に「史蹟 神戸事件発生地」の碑が建っていますが、ここで、江戸幕府滅亡直後の1868年1月11日、「神戸事件」が起こりました。ここ三宮神社のすぐ南を西国街道が東西に走り、それを隔てて南側一帯は外国人居留地でした。その日、西宮の警備へ向うため備前藩の行列が西国街道を東へと行進していました。行列が三宮神社付近にさしかかった時、これを横切ろうと居留地の方から出てきた外国人水兵(イギリス人ともフランス人もいわれる)が、備前藩士滝善三郎正信の手槍で傷つけられてしまったのです。そのため、知らせを聞いた停泊中の軍艦から外国兵が上陸し、交戦状態となり、外国兵は神戸を占領してしまいました。これが「神戸事件」で、明治新政府は勅使東久世通禧(ひがしくせみちとみ)を派遣し、事件の解決にあたらせましたが、結局、備前藩家老の日置帯刀が謹慎、滝善三郎が切腹処分となり、滝は2月9日、兵庫永福寺で外国人立ち会いのもと切腹し、事件は解決したのです。

このような事件を起こさないようにと突貫工事で作った道が「徳川道」なのですが、そのかいもなく事件は起きてしまいました。そして、この時、外国人に追われて逃げ惑う備前藩の藩士たちが、この徳川道を通って逃亡したという言い伝えが残されており、この話が本当なら、なんともまあ皮肉な結末を迎えたことになります。

ということで、このロケの、本来のオチは、この皮肉な結末だったのですが、時間の都合で幻のオチとなりました(三宮神社の前で、そのことをしっかり解説したのですが...)。

